

調査・研修等計画届出書

令和7年9月24日

瀬戸市議会議長 様

議員名 小澤 勝

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和7年10月9日から10月10日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	第87回全国都市問題会議	
会場名（会場所在地）	ライトキューブ宇都宮（栃木県宇都宮市宮みらい1-20）	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	<p>基調講演 広井良典 京都大学名誉教授</p> <p>主報告 佐藤栄一 宇都宮市長</p> <p>一般報告 南 学 東洋大学国際PPP研究所 大西秀人 高松市長 森本章倫 早稲田大学理工学術院教授</p> <p>パネルディスカッション コーディネーター 内田奈芳美 埼玉大学大学院教授 パネリスト 吉田 元 (株)みちのりHD代表 青山 剛 室蘭市長 山下裕子 まちなか広場研究所 伊木隆司 米子市長</p> <p>子どもから高齢者まで、誰もが将来にわたって安心して暮らし続けることができるコンパクトで持続可能な都市を実現する方策について、他市の事例を講演・報告、パネルディスカッションで学びながら、本市の在り方を考察する。</p>	
議長名の依頼	不要	依頼先（名称）
同行者名	柴田利勝	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和 7年 10月 30日

瀬戸市議会議長 様

議員名 小澤 勝

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和7年10月 9日から10月10日まで（1泊2日）
調査先・研修名	第87回全国都市問題会議
会場名（会場所在地）	ライトキューブ宇都宮（栃木県宇都宮市宮みらい1-20）
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	基調講演 広井良典 京都大学名誉教授 主報告 佐藤栄一 宇都宮市長 一般報告 南 学 東洋大学国際PPP研究所 大西秀人 高松市長 森本章倫 早稲田大学理工学術院教授 パネルディスカッション コーディネーター 内田奈芳美 埼玉大学大学院教授 パネリスト 吉田 元 (株)みちのりHD代表 青山 剛 室蘭市長 山下裕子 まちなか広場研究所 伊木隆司 米子市長 子どもから高齢者まで、誰もが将来にわたって安心して暮らし続けることができるコンパクトで持続可能な都市を実現する方策について、他市の事例を講演・報告、パネルディスカッションで学びながら、本市の在り方を考察する。

10月 9日(木)

9:30 開会式

9:50 基調講演

「人口減少・成熟社会でのデザイン」

広井 良典 氏 京都大学名誉教授

- ・成熟社会における都市の現在
- ・コンパクトなまちづくりが求められる歴史的な背景
- ・持続可能な都市の再編に当たっての方向性
- ・成熟社会の都市のかたちに向けて

将来にわたって、これまで当然とされてきた生活機能を、今後も身近なものとして恒久的に享受するためにも、コンパクトなまちづくりは喫緊の課題としてその対応が求められている。

今後のさらなる人口減少の加速を考慮するならば、自治体間をまたいだより広いスケールである、例えば生活圏レベルでの制度設計の議論が求められる、将来的には、広域的な連携によって、持続性のある都市の実現に向けた合意形成とその調整を図っていく姿勢が必要となる。

持続可能なまちづくりの実現にあたっては、住民と行政との連帯が形作られることで、より持続性のあるコンパクトな都市のかたちが拓ける可能性が高まっていくと考えられる。

今後の都市のまちづくりに関する視点として、「なぜ」コンパクトなまちづくりが阻害されているのかといった、その背景・要因を探るだけでなく、「いかにして」コンパクトなまちづくりを達成するのかといった、その実現方法を追求する考え方へと発想の転換を行う姿勢も求められるであろう。

そうした考え方にに基づき多様な事例で構成されており、都市自治体の実務に資する先進的な報告がなされている。

「コミュニティ空間づくり」という視点を重視し、商店街を含む成熟社会の中心市街地の姿を新たな発想で考えていく時代になっている。

まちづくり、中心市街地再生、商店街復権、公共交通、若者支援、人口減少対応、社会保障改革などさまざまな公共政策を総合的に展開していくことがいま求められている。

10:50 主報告

「人口減少社会に対する都市の構造改革」
～100年先も発展できる

「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～
佐藤 栄一 氏 栃木県宇都宮市長

宇都宮市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」NCCとは、この「拠点化」と「ネットワーク化」の促進を一体的に進めるもので、この「拠点化」と「ネットワーク化」により、コンパクトなエリアで日常生活に必要な機能が充足し、市民生活の質や都市としての価値や活力を高めることができる都市を実現する。

宇都宮市の人口は平成29年の約52万をピークに減少局面を迎えております。

それを踏まえ、拠点形成・拠点性の向上を目指し、NCCの促進を図るため立地適正化計画の活用と本市独自の補助制度等の運用により取り組んでいる。

中心部の都市拠点に魅力創出につながる都市機能（高度専門病院、大規模商業施設等）を集積する高次都市機能誘導区域（11か所）や、市街化調整区域の地域拠点（7か所）を定め、誘導施設の新築・建替え費用の一部補助などにより、幅広い都市機能（病院、スーパー、子育て支援施設等）の誘導・集積を図っている。

さらに、JR宇都宮駅東口～芳賀町間で令和5年（2023）年8月に開業を迎えた次世代型路面電車「芳賀・宇都宮LRT」（以下、「ライトライン」という）の停留所周辺や主要なバス停周辺などの整備費の助成を実施。

また、ライトライン沿線の新たな賑わいと交流の拠点となる「東部総合公園（愛称：アークタウン宇都宮）」については、アーバンスポーツを核に、多様なスポーツ機能や地元の農産物を活かした物販や飲食など、魅力的な公園として整備を進めている（令和8年3月開園予定）。

ライトライン延伸を計画しているJR駅西側の大通り沿線を中心とした「都心部まちづくり」を官民協働で推進して、「住む」「働く」「学ぶ」「憩う」といった、これまでの車中心の空間から人中心ウオーカブルなまちへの転換を目指している。

ライトラインは全国初の全線新設の次世代型路面電車であり、輸送力や定時制・速達性に優れている。また、ライトラインは地域新電力会社「宇都宮ライトパワー株式会社」が供給する、家庭ごみ等の焼却によるバイオマス発電などの地域由来の再生可能エネルギーのみで走行する「ゼロカーボントランスポート」であり、人と環境に優しい運行を実現している。ライトラインの総利用者数は、令和7年8月19日時点で当初の予測より約6か月早く1,000万人に到達した。

また、1日当たりの利用者数は、当初は開業3年目に平日平均約1万6,000人に達すると予測していたところ、2年目の時点で約1万7,000～1万9,000人（予想の1.2～1.3倍）となるなど、地域の移動手段として定着している。

また、開業前と比較した自動車からライトラインへの転換台数は平日1日当たり約5,000台と試算され、沿線道路の1日当たりの自動車交通量は約2,000

台減少するなど、公共交通への転換が進んでいる。

ライトラインの整備区間公表以前の平成24年と比較して、令和6年の沿線の住居人口は約10%増加、住宅地の地価は約14%上昇している。

また、沿線に位置する工業団地では、開業前後に公表された投資額が1,100億円を超えるなど、まちづくりの効果が現れている。

今後、概ね2030年を目指すまちの姿として、「地域共生社会」、「地域経済循環社会」、「脱炭素社会」の3つの社会が、「人」づくりの取組と「デジタル」技術を活用を原動力に人口減少社会において持続的に発展するまちであり、その実現を通してSDGsの達成にも貢献する。

おわりに、女性や若者をはじめ、性別や年齢などのかかわらない、あらゆる人の活躍を促し、地域全体の「稼ぐ力」を高め、さらに未来への投資にもつなげていく「好循環」を生み出すことで、今を生きる市民はもとより、未来を生きる市民の誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、そして100年も発展し続けられるまちの実現を目指している。

13:10

一般報告 「縮充」発想による公共施設マネジメント

南 学 氏 東洋大学国際PPP研究所

シニアリサーチパートナー

公共施設の再編成の課題に際して、「縮充」がキーワードとして活用できると考えている。「拡充」の時代から「縮小」の時代への変化をネガティブとしてみるのではなく、縮小しても機能の充実につながれば、むしろポジティブな将来像も描けるのではないかと考えて生み出した。

行政は縦割り部局ごとの管理運営と予算執行という構造のため、削減に向けての具体的な「手法」開発とその実践が十分に開発されていない状況にあったからである。また数十年の長期間の「計画」のために、年度ごとの明確な目標設定がなされず、さらに定期的人事異動も含めて、実質的に「先送り」されたことも「公共施設マネジメント」が進まない要因でもある。「公共施設マネジメント」は喫緊の課題ではあるが、その解決への手法は、これまでの個別都道府県と市町村。

近隣自治体、民間の施設の壁を突破し、地域住民の利活用を基本に、地方公共団体、民間、市民のさまざまな協働（連携）と負担とを合理的に調整し配分する「縮充」しかないことが明らかになりつつある。そして、この手法は、公共施設マネジメントに限らず。成熟社会における都市のあり方検討にも十分に応用可能であることを強調。

14 : 10

一般報告 都市縮小時代の持続可能なまちづくり

～人がつどい未来に躍動する世界都市・高松～

大西 秀人 氏 香川県高松市町

人口減少や経済の成熟化は、決して衰退を意味するものではなく、むしろ「質の高い暮らし」や「人にやさしい都市」を再構築するための転換点となりうる。その鍵となるのは、「まちを誰がつくるのか」という問いに真摯に向き合うことだ。

まちは、そこに暮らす人々自身の手によって再生されるべきもの。行政は、その意志と取組を支える土台であり、強制的な装置であり、信頼される伴走者であるべき。

今後も、市民とともに考え、市民とともに創る「共創のまちづくり」を進め、そして、丸亀町の成功と教訓を糧に、住む・働く・集う機能が総合的に重なり合う“歩いて暮らせる都市”の形成を目指すなど、都市縮小時代における「持続可能なまちづくり」を追求していく。

15 : 30

次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり

森本 章倫 氏 早稲田大学理工学術院教授

人口減少のまちづくり、我が国の総人口は 2008 年をピークに減少に転じ、2050 年までに約 2,000 万人もの人口が減少すると予測されている。そんな中、コンパクトシティに向けた施策の考え方は、交通機関の台頭が都市の形を大きく変化させてきたといえる。そこで、次世代交通システムのデザインを取り入れた交通システムが必要で、郊外のお住いの方の移動手段を確保しつつ、都心部を魅力的な空間へと再生できるかが重要である。集約エリアを新しい居住地として選択する人が少しずつ増えればコンパクト化は徐々に進行する。

車離れが進む若者や、車を手放した高齢者の新しい住みかとして集約エリアが選ばれるかが、コンパクトシティの成否のカギを握っている。

サイバー空間（プラットフォーム、データ取得）におけるフィジカル空間における情報基盤整備が必要であり。あらゆる交通機関がデータプラットフォームを経由して、つながるためフィジカル空間（交通機能、都市機能）では持続可能なコンパクトシティを目指しつつ、この両者が有機的に連携してこそこれからの持続可能なまちづくりといえる。

16 : 30 終了

10月10日（金）

9：30 パネルディスカッション

【テーマ】

成熟社会の都市のかたちーコンパクトで持続可能なまちづくり

【パネリスト】

内田奈芳美 氏 埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授

・まちなかの「パブリック・ライフ」の再考：成熟社会におけるコンパクトな都市を考える上で

吉田 元 氏 (株)みちのり HD 代表取締役グループCEO

(兼) 関東自動車(株)代表取締役社長

・成熟社会における
公共交通ネットワークの進化と持続可能性への挑戦

山下 裕子 氏 まちなか広場研究所主宰

・「いくつになっても」「出かけていけ」「出かけたたい」
都市について思案する

青山 剛 氏 北海道室蘭市長

・室蘭市におけるコンパクトなまちづくり
ー課題解決先進地への挑戦ー

伊木 隆司 氏 鳥取県米子市長

・歩いて楽しいまちづくり
～公共交通と歩行者中心の持続可能なまち～

11：50 閉会式

佐藤 孝弘 氏 次期開催市市長挨拶 山形県山形市長

閉会挨拶

大西 秀人 氏 公益財団法人日本都市センター理事長

香川県高松市長

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

今回の全国都市問題会議に参加をして、テーマにあるように、“成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～” 開催市である宇都宮市長・佐藤栄一氏の自身に満ちたまちづくりの報告、また取り組んで見えてきた課題などを、今後の計画的なまちづくりに活かし、時代の流れの変遷に対応した施策を投資的な部分と、民間活力を活かした発想や市民の皆さんの参加意識を高めながら中長期的な期間を見据え行動していく姿が見られました。

他の、市町の首長さん始め、民間企業の社長やまちづくりのNPO団体の実例を踏まえた研究発表は、どの事例も自身に満ちた活動内容で今後のまちづくりの大きな指針になり、あらためて人口減少に伴う地域間競争がまちの魅力づくりに繋がると感じました。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
7 年	瀬戸市	愛環	片道	高蔵寺	6.2	km	330	円	円
	高蔵寺	JR	片道	名古屋	24	km	8,030	円	円
10 月	名古屋	新幹線	片道	東京	366	km		円	4,920 円
	東京	新幹線	片道	宇都宮	109.5	km		円	2,840 円
9 日						km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
ホテルニューイタヤ					03-5949-1358		12,400 円		
備考欄									

28,520 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
7 年	宇都宮	新幹線	片道	東京	109.5	km	8,030	円	3,240 円
	東京	新幹線	片道	名古屋	366	km		円	5,120 円
10 月	名古屋	JR	片道	高蔵寺	24	km		円	円
	高蔵寺	愛環	片道	瀬戸市	6.2	km	330	円	円
10 日						km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									

小計 16,720 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
年						km		円	円
						km		円	円
月						km		円	円
						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									

小計 円

パック等による割引など

円

宿泊費 合計

12,400 円

交通費 合計

32,840 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)

45,240 円